

## 宿泊研修で『挨拶・清掃・ごみ拾い』の実践活動しよう

今年度も 8 月 16 日(土)、17 日(日)の両日に宿泊研修をすることにしました。そのねらいは『耕人塾』で目指している「人間力」を磨き、自然や郷土を愛する心を養うためです。今回の宿泊研修は、班ごとの活動が主になりますが、その活動の中で大切にしてほしいのが「挨拶・清掃・ごみ拾い」です。どうしてこの三つが大切なのかを説明したいと思います。

「挨拶」の「挨」とは、押し開く、相互に近づくという意味があり、「拶」は迫るという意味があります。どちらも自分から心を開いて近づくという意味になります。先日、石巻商業高校のグラウンドの前を通りました。すると、野球部の選手 2, 30 人が一斉に練習を止めて、こちらに向かって帽子を取り「こんにちは！」という大きな挨拶をしてくれました。私も車から降りて挨拶を返したのですが、爽やかな温かさが心の中に広がりました。そういえば、昨年度の『耕人塾』で前石商野球部監督の水沼先生が「挨拶は何時でも、何処でも、何度でも」と話したことを思い出しました。挨拶は人の心を温かくし、人と人をつないでくれます。

「清掃」とは、感謝を形に表すことです。日ごろ使っている自分の部屋をきれいにすることや家の掃除のお手伝いをするのはとても大切なことです。私は物にも心があると思っています。感謝の気持ちを込めて大切に扱うことやきれいに使うことを心がければ、物もそれに応えてくれるような気がします。また、清掃をすることによって自分の心も磨かれるものと思っています。今回は、旭山のごみ拾いをした後で、「コロボックルハウス」を清掃することにしました。心を込めて、隅々まできれいにして感謝の心を表したいと思います。そうすれば、次の人が気持ちよく使うことができ、感謝の心が次の人にも伝わっていくはずです。

「ごみ拾い」は自然や故郷を大切にすることです。『耕人塾』でも川開き祭の前後の朝に、ごみ拾いをした班がありました。私も花火大会の次の朝、5 時ごろから中瀬公園や住吉公園のごみ拾いをしたのですが、5 時半ごろから多くの人たちがごみ拾いに集まり、1 時間半ほどですっきりきれいになりました。しかし、ごみを拾うことも大切なのですが、ごみを捨てない市民の輪を広げていくことがもっと大切です。自分が食べたり飲んだりしたごみを平気で公共の場所に捨てるということは、とても恥ずかしい行為です。どうしたらごみを捨てない市民の輪を広げていくことができるか、塾生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

たった 1 泊 2 日の研修ですが、塾生の皆さんにとって今回の体験が、一生の財産になると思います。「挨拶・清掃・ごみ拾い」を実践し、自分の「人間力」を磨く研修にしましょう。

### 「処人靄然(しよじんあいぜん)」の人になってほしい

夏休中、高校の剣道部員への講話のために何校かを訪問しました。1 時間程度の講話ですが、皆姿勢が良く、何かを聴き取ろうとする意欲が目に見え、どの生徒の瞳もきらりと輝いていました。話し終えた後の爽快感は生徒からの贈り物だと感じました。中・高校生時代に何かに打ち込んでいる人の瞳は本当にきれいです。そして、瞳の輝きや意欲的な姿が周りを爽やかにし、温かくしてくれます。「処人靄然」という言葉があります。人に接しては、場を明るくし和やかにするという意味です。『耕人塾』塾生も、そんな人になってほしいと願っています。

## 「ごみ拾い」を継続して自然をきれいにし、自己を磨こう

今年度の『耕人塾』は塾生の主体性を高めるために、大テーマ「世界に誇れる石巻をつくろう」の下、班毎のテーマを決めて実践活動をしています。川開き祭を紹介するリーフレットの作成や配布、駅前のごみ拾いや雑草取り、花火大会翌日の早朝ごみ拾いや他団体との交流など、積極的に活動する中で「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する活動をしています。

しかし、塾生一人一人は成長しているものの自己改革するまでの体験が少なく、一過性の活動だけでは市民へのアピール度も不足していると感じていました。そのようなとき、ある先生から次のようなアドバイスをいただきました。「各班が考えた実践活動の中で、誰にでもできる活動を継続してやってみてはどうか」という提案です。

「耕人」でも何度か書いてきましたが、石巻地域の道路や公園、空き地には、残念ながらまだまだごみがたくさん捨てられています。中には、コンビニの袋に入れたまま故意に捨てられているものもあります。ごみを平気で道路や公園に棄てている人が多いということは市民としてとても恥ずかしいことであり、「世界に誇れる石巻」とはとても言えません。皆さんが継続してごみを拾う姿は、必ずや市民の心に伝わっていくと思っています。

そこで、次のような素案をつくってみました。皆さんからたくさんのご意見をいただき、修正して実践活動にしていきたいと思えます。

### 『耕人塾』実践活動（素案）

- ① ねらい：ごみ拾いを継続することによって自然や地域をきれいにするとともに、早朝実施で克己心を養う。（通常の『耕人塾』は計画通りに実施する）
- ② 日 時：A 案→毎月第 1 日曜日の朝 5:00～7:00 の間の 15 分間のごみ拾い活動をする。  
B 案→毎月第 2, 4 日曜日の朝 5:00～7:00 の間の 15 分間のごみ拾い活動をする。  
C 案→毎週日曜日の朝 5:00～7:00 の間の 10 分間のごみ拾い活動をする。  
D 案→上記の活動を組み合わせて実施する。
- ③ 場 所：A 案→自宅付近（1～2 人で）、B 案→指定した近くの公園（3～4 人で）、  
C 案→指定場所（全員で）、D 案→その他
- ④ 参加対象：塾生、指導者、その他賛同者（参加は自由とし、耕人塾以外にも呼びかける）
- ⑤ その他：用具は各自準備し、ごみは持ち帰って各自分別する。ビブスを着用する。

いかがでしょうか。皆さんの意見を参考に案を作成したいと思います。

### 「離己利他（りこりた）」に生きる

この言葉は下関市立川中学校校長の児玉典彦先生が闘病生活の中で自ら創作した言葉です。児玉先生は 10 年前に喉頭がんで声帯を切除し、肉声を失ってしまいました。しかし、校長になってからも人工喉頭機を使って道德の授業を行っています。その先生が最も生徒に伝えたい事は「離己利他」という言葉だそうです。その言葉には「自分のためにだけ生きようとする」と行き詰るが、自分以外の人のためになれば思いがけない力が出る。だから自分の幸せではなく、人の幸せのために生きる人になってほしい。」という願いが込められています。